

事務事業名	真岡井頭マラソン大会運営事業			担当	教育委員会 スポーツ振興課 指導係		
政策名	B	学びと歴史・文化が豊かな心を育むまちづくり		増補版施策名	V-7 スポーツによるもおが創生の推進		
施策名	4	生涯スポーツ・レクリエーションの振興		<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠	真岡市補助金等交付規則				<input type="checkbox"/> 単年度繰延（開始年度 昭和59 年度～）		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	5. 保健体育費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	昭和59年、真岡市市制施行30周年記念事業として開催。「過去を振り返り現在を見つめ未来を考える」をテーマとした市民総参加型の事業として、「市民ひとり1スポーツ」の推進と生涯スポーツの振興、真岡市のPRを目的として井頭公園をスタート・ゴールとし、毎年10月に開催。2キロ、4キロ、10キロコースを設定。平成19年度新しい種目として小学生高学年の部を設けた。 平成30年度実行委員数：15人 参加申込者数：1,923人 （参加料）一般 3,000円 親子ペア 2,000円 中学生 1,000円 小学生 1,000円 平成29年度から一般参加料を500円値上げした。						

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 30年度実績 実行委員会の開催。 前年度参加者へのダイレクトメールや広報紙、雑誌、HPなどにより参加者を募集する。 運営は、教育委員会職員を主とした市役所職員、ボランティアへ依頼。 平成30年度は、通常開催の2キロ（小学生・親子ペア）、4キロ（中学生・一般）と10キロ（一般）コースで実施した。  31年度計画 前年度に同様	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移								
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
	ア	PR回数	回	6	6	6	6	6	
	イ	実行委員会開催数	回	3	3	3	3	3	
	ウ	大会参加者申し込み数	人	2,500	2,484	2,113	1,923	2,500	
エ									
オ									
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 市民、市民以外のマラソン愛好家、ボランティア	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移								
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
	ア	市民数	人	80,590	79,422	79,542	79,414	79,324	
	イ	ボランティア数	人	184	180	158	170	180	
	ウ								
エ									
オ									
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） マラソンを通して市民の健康づくりや人とのふれあいの場を提供する。 真岡市のイベントとして他市町村へ市のPRの場とする。	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移								
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
	ア	市民参加者数	人	878	894	632	653	900	
	イ	市外参加者数	人	1,622	1,590	1,481	1,270	1,600	
	ウ								
エ									
オ									
④結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか） 市民ひとり1スポーツの推進と生涯スポーツの振興を図る。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移								
	名称		単位	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(実績)	31年度(見込)	
	ア	スポーツレクリエーションをしている市民の割合	%	47.3	60.7	59.3	58.5		
	イ								
	ウ								
エ									
オ									
(2) 総事業費の推移									
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	1,080	1,080	1,080
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	5,685	5,272	5,174	4,990	4,990
			一般財源	千円	2,160	2,160	1,080	1,080	1,080
	事業費計(A)			千円	7,845	7,432	7,334	7,150	7,150
	人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	
		延べ業務時間	時間	1,702	1,702	1,702	1,702	1,702	
		人件費計(B)	千円	7,131	7,068	7,063	7,096	7,096	
	トータルコスト(A)+(B)			千円	14,976	14,500	14,397	14,246	14,246

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	市民総参加の事業として、昭和59年の真岡市制30周年記念事業で開始した。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	ゴール処理が電算化されて、事務処理のスピード化が図られた。 大きな市民マラソン大会の影響により、マラソン愛好者の市民の数が増加しており、ここ数年徐々に参加者数が増えてきている。 当初は、2キロ、4キロ、5キロ、10キロのコースを設定し実施したが、より多くの対象参加者を募るためコースの変更を加えながら、現在は2キロ、4キロ、10キロコースで実施している。 平成26年度はねりんピックと同時開催となったため、平成25年度のリハール大会と併せて、2年間限定で2キロ、3キロ、5キロ、10キロのコースで実施した。 平成27年度からは、元の種目及びコースに戻して実施した。 中学生以下の参加費1,000円では、参加者に配布するTシャツを作成するための経費が赤字となる。従って、中学生以下の参加者が増えることで経費面に不安が出てくる。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	大会参加者より、もっと長い距離（20キロ等）のコース設定の要望がある。 観客の多い市街地をコースとして走りたいという要望がある。 給水所の数を2箇所から3箇所へ増やして欲しいという要望がある。

2. 1次評価の部 \*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市民ひとり1スポーツの推進と生涯スポーツの振興が進むことは、市民の健康づくり、体力づくりに結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 多くの市民が参加・協力する事業として真岡市をPRする場となっており、また市民ひとり1スポーツの推進、生涯スポーツの振興を図るための事業として実施しているため、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市民、市民以外のマラソン愛好者、ボランティアを対象とし、市民の健康づくりやふれあいの場を提供しており、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある スポーツの振興と市のPRを行っている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 多くの市民が参加・協力する事業として真岡市のPRの場が無くなる。 市民1スポーツの推進及び生涯スポーツの振興が図れなくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない 類似事業はない。
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 大会運営のための必要最少限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 必要最少限の人件費に対応している。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 今後、参加費の見直しを検討する。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し( <input type="checkbox"/> :目的妥当性 <input type="checkbox"/> :有効性 <input type="checkbox"/> :効率性 <input type="checkbox"/> :公平性 ) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							